0.1 H28 数学必修

$$\boxed{1} \ (1) \begin{pmatrix} 2 & -1 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ -1 & 2 & -1 & 0 & 1 & 0 \\ 1 & -1 & 2 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -1 & 2 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & -3 & 1 & 0 & -2 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & 3 & 0 & 1 & 2 \\ 0 & 1 & 1 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & -4 & 1 & -1 & -3 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 3/4 & 1/4 & -1/4 \\ 0 & 1 & 0 & 1/4 & 3/4 & 1/4 \\ 0 & 0 & 1 & -1/4 & 1/4 & 3/4 \end{pmatrix}$$
よって逆行列は
$$\begin{pmatrix} 3/4 & 1/4 & -1/4 \\ 1/4 & 3/4 & 1/4 \\ -1/4 & 1/4 & 3/4 \end{pmatrix}$$
である。
$$(2)g_A(t) = \begin{vmatrix} 2-t & -1 & 1 \\ -1 & 2-t & -1 \\ 1 & -1 & 2-t \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 2-t & -1 & 1 \\ 0 & 1-t & 1-t \\ 1 & -1 & 2-t \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 2-t & -1 & 2 \\ 0 & 1-t & 0 \\ 1 & -1 & 3-t \end{vmatrix} = (1-t) \begin{vmatrix} 2-t & 2 \\ 1 & 3-t \end{vmatrix} = (1-t) \begin{pmatrix} 2-t & 2 \\ 1 & 3-t \end{pmatrix}$$
$$(1-t)((2-t)(3-t)-2) = -(t-1)^2(t-4)$$
である。

よって固有値は 1,4

(3) 各固有値の固有ベクトルをもとめる.
$$\begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ -1 & 1 & -1 \\ 1 & -1 & 1 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$
 より $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ が 1 の固有

ベクトル. 直交化すると
$$\begin{pmatrix} 1\\1\\0 \end{pmatrix}$$
, $\begin{pmatrix} -1/2\\1/2\\1 \end{pmatrix}$ $\begin{pmatrix} -2&-1&1\\-1&-2&-1\\1&-1&-2 \end{pmatrix}$ $\rightarrow \begin{pmatrix} 1&-1&-2\\0&-3&-3\\0&-3&-3 \end{pmatrix}$ $\rightarrow \begin{pmatrix} 1&0&-1\\0&1&1\\0&0&0 \end{pmatrix}$ より $\begin{pmatrix} 1\\-1\\1 \end{pmatrix}$ が 4 の固有ベクトル. よって $P=\begin{pmatrix} 1&-1/2&1\\1&1/2&-1\\0&1&1 \end{pmatrix}$ とすれば P は直交行列で $P^{-1}AP=\begin{pmatrix} 1&0&0\\0&1&0\\0&0&4 \end{pmatrix}$

(4)A の固有値 λ とその固有ベクトル $x \neq 0$ をとる. $x,y \in \mathbb{C}^n$ の標準エルミート内積を $(x,y) = x^T \bar{y}$ とする. $\lambda(x,x) = (\lambda x,x) = (Ax,x) = (x,\overline{A^T}x) = (x,Ax) = (x,\lambda x) = \bar{\lambda}(x,x)$. (x,x) > 0 より $\lambda = \bar{\lambda}$ すなわち λ は実数.

2[1] $(1)x,y \in H \cap H'$ のとき $xy^{-1} \in H, xy^{-1} \in H'$ であるから $xy^{-1} \in H \cap H'$ である. よって $H \cap H'$ は部分群.

 $(2)hn,h'n'\in HN$ とすると、 $(hn)(h'n')^{-1}=hn(n')^{-1}h'^{-1}=h(n(n')^{-1})h'-1\in N$ であるから HN は部分群.

 $(3)x,y\in f^{-1}(H')$ とすると $f(xy^{-1})=f(x)f(y)^{-1}\in H'$ より $xy^{-1}\in f^{-1}(H')$

[2] $(1)x \in \mathbb{Z}$ の $\mathbb{Z}/n\mathbb{Z}$ における剰余類を [x] とする. $([x],[y]) \in \mathbb{Z}/4\mathbb{Z} \oplus \mathbb{Z}/5\mathbb{Z}$ とする. $5x - 4y \equiv x \pmod{4}$, $5x - 4y \equiv y \pmod{5}$ より (5x - 4y)([1],[1]) = ([x],[y]) となるから巡回群.

 $\mathbb{Z}/4\mathbb{Z} \oplus \mathbb{Z}/5\mathbb{Z}$ が位数 20 の巡回群であるから $\mathbb{Z}/20\mathbb{Z}$ と同型.

よってその生成元の数は0 < i < 19のうち20と互いに素な整数の個数. すなわち8個.

(2)m,n の最小公倍数を d として m=dm',n=dn' とする。 $\ell=dm'n'$ とする。 $([x],[y])\in\mathbb{Z}/m\mathbb{Z}\oplus\mathbb{Z}/n\mathbb{Z}$ とする。 $\ell([x],[y])=([0],[0])$ となるから $\mathbb{Z}/m\mathbb{Z}\oplus\mathbb{Z}/n\mathbb{Z}$ の任意の元は位数は ℓ 以下である。 $d\geq 2$ より $\ell< mn$ であるから生成元を持たない。

$\boxed{3}$ (1) f は C^{∞} 級関数である.

$$f_x = 6e^{3x} - 6e^x \cos y, f_y = 6e^x \sin y + 3\sin 2y$$
$$f_{xx} = 18e^{3x} - 6e^x \cos y, f_{yy} = 6e^x \sin y + 6\cos 2y, f_{xy} = 6e^x \sin y$$

 $f_x=f_y=0$ となる (x,y) を求めると, $e^{2x}=\cos y, e^x\sin y+2\sin y\cos y=0$ より $\sin y(e^x+e^{2x})=0$ よって $y=n\pi$ $(n\in\mathbb{Z})$ すなわち $\cos y=\pm 1$. $e^{2x}=\cos y$ より $(0,2n\pi)$ $(n\in\mathbb{Z})$ が求める点である.

これらの点でのヘッセ行列が正定値となる必要十分条件は $f_{xx}|_{(0,2n\pi)}>0$, $f_{xx}|_{(0,2n\pi)}f_{yy}|_{(0,2n\pi)}-f_{xy}^2|_{(0,2n\pi)}>0$ である.

 $f_{xx}|_{(0,2n\pi)} = 12, f_{yy}|_{(0,2n\pi)} = 12, f_{xy}|_{(0,2n\pi)} = 0$ よって常に正定値.

以上より f は $(0,2n\pi)$ $(n \in \mathbb{Z})$ で極小値を持つ.

$$(2)A = \{(x,y) \mid x^2 + y^2 \le 4\}, B = \{(x,y) \mid (x-1)^2 + y^2 \ge 1\}$$
 とする. $D = A - B$ である.

よって
$$\iint_D x^3 - 3xy^2 dx dy = \iint_A x^3 - 3xy^2 dx dy - \iint_B x^3 - 3xy^2 dx dy$$
 である.

$$x^3 - 3xy^2$$
 は $f(x,y) = -f(-x,-y)$ であるから $\int \int_A x^3 - 3xy^2 dx dy = 0$ である.

 $x-1=r\cos\theta, y=r\sin\theta\ と変数変換するとヤコビアンは <math>r$ であり、 $\int\int_B x^3-3xy^2dxdy=\int_0^1\int_0^{2\pi}r(r\cos\theta+1)^3-3r^4\cos\theta\sin^2\theta d\theta dr$ である。 $\sin,\cos\phi$ 周期性を考えれば、 $\int_0^1\int_0^{2\pi}r(r\cos\theta+1)^3-3r^3(r\cos\theta+1)\sin^2\theta d\theta dr=\int_0^1\int_0^{2\pi}r(3r^2\cos^2\theta+1)-3r^3\sin^2\theta d\theta dr=\int_0^13r^3dr\int_0^{2\pi}(\cos^2\theta-\sin^2\theta)d\theta+\int_0^1rdr\int_0^{2\pi}d\theta=\pi$ である。

よって
$$\int \int_D x^3 - 3xy^2 dx dy = -\pi$$

$$(2)\frac{1}{1+x} = \sum_{n=0}^{\infty} (-1)^n x^n$$
 であるから $\log(1+x) = \int \frac{1}{1+x} dx = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n}{n+1} x^{n+1}$ である.

したがって
$$\frac{\log(1+x)}{x} = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n}{n+1} x^n$$
 である.

 $\frac{x}{\log(1+x)} = \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ とすると、 $\frac{x}{\log(1+x)} \frac{\log(1+x)}{x} = 1$ であり、テイラー展開の係数を比較すると、 $a_0 = 1, (a_1 + a_0 \frac{-1}{2}) = 0, (a_2 + a_1 \frac{-1}{2} + a_0 \frac{1}{3}) = 0, (a_3 + a_2 \frac{-1}{2} + a_1 \frac{1}{3} + a_0 \frac{-1}{4}) = 0$ より $a_0 = 1, a_1 = \frac{1}{2}, a_2 = \frac{-1}{12}, a_3 = \frac{1}{24}$ である。

よって
$$f(x) = 1 + \frac{1}{2}x + \frac{1}{12}x^2 + \frac{1}{24}x^3 + O(x^4)$$
 である.

$$|4|(1)\{U_{\lambda_1}, U_{\lambda_2}, \dots, U_{\lambda_n}\}$$

$$(2)\{V_{\mu_1},V_{\mu_2},\ldots,V_{\mu_m}\}$$

(3)p

(4)f は全単射であるから X の閉集合 F の像が Y の閉集合であることを示せばよい. F は (1) からコンパクトである. よって (2) から f(F) はコンパクト. よって (3) から f(F) は Y の閉集合.